



村の歴史を調べる : 大字誌の発行に向けて

神崎, 茂樹

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 13:19-23

(Issue Date)

2015-01-31

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81008746>



村の歴史を調べる ―大字誌の発行に向けて―

平成 27 年(2015 年)1 月 31 日

行重の歴史を勉強する会 神崎 茂樹

はじめに

平成 25 年 6 月から、「行重の歴史を勉強する会」を開催している。目的は、大字誌を作ること。既刊行物から抜粋した行重に関する記述を読むことから始め、時には現場に足を運びながら進めている。まだ、「村の歴史を調べる」ところにまで至っていないため、会の活動状況等について報告する。

1 行重の紹介

2 なぜ村の歴史を調べようと考えたか

- (1) 自分達が村の歴史を知らない ⇒ 知りたいという欲求
- (2) 自分たちの記憶さえ曖昧になっている ⇒ 記録することが重要
- (3) 過去のことを調べ知ることは面白い。

3 会員の募集について

4 勉強会の開催状況

参加者は 16 名。毎月第 3 土曜日開催。過去に 15 回実施したが、昨年の「写真&資料展」後 3 か月ほどは停滞した。

5 これまで実施してきた内容

- (1) 「村の記憶」等から抜粋した資料を全員で読み進めた
- (2) 発生する疑問点の調査 ⇒ 現場に行ってみたい
- (3) 大槻先生を迎え、大字誌を作る上で大切なことを教えて頂いた
- (4) 現場へ足を運ぶ ⇒ 狐塚古墳、後藤行重縁の供養塔など
- (5) 大槻先生の指導のもとに古い家の「蔵」の調査
- (6) 「行重なつかしの写真&資料展」の開催

6 大字誌の発行に向けて

- (1) 今後の作業等 ― 古地図による行重巡り、「蔵」の調査、古老の話の記録等
- (2) 調査すべきこと ― 山の役割と変遷、農業農村の変遷、過去の生産物、村の行事の変化等

おわりに

私たちの大字誌は身近な過去が中心のものになるだろうが、若い人から年寄りまで皆に読んで貰えるものにしたい。そして、行重の現在を、将来を考えて欲しいと願っている。

村の歴史を調べる

— 大字誌の発行に向けて—

平成27年1月31日

行重の歴史を勉強する会 神崎 茂樹

- 1 行重の紹介
- 2 なぜ、村の歴史を調べようと考えたか
- 3 会員の募集
- 4 勉強会の開催状況等
- 5 これまで実施してきた内容等
- 6 大字誌の発刊に向けて

1 所在等 姫路市香寺町行重

・戸数 79戸(215人)

(男97名;女118名)

・土地 山裾を開墾 ⇨ 田畑
農地(約23ha)、山林

・水利 ため池、川

・作物 米、小麦、大豆、黒豆

2 状況

兼業農家が農業・土地を維持
昭和57年営農組合設立

3 村の開発 1317年頃

1 行重の紹介



2 なぜ、村の歴史を調べようと考えたのか

・大字誌について話し合う内に、村の歴史を知らないことに気付いた

・自分達の記憶さえ曖昧
調べ記録しておくことの必要性

・過去を調べ知ることは面白い

勉強会を
立ち上げ

3 会員の募集

行重自治会
会長 神崎 弘昭

「行重の歴史を勉強する会」会員の募集について

最近、大字誌（村の歴史誌）を発行する動きがあります。行重には誇るべき遺跡などもありますが、数百年に亘り人々がこの地で生活してきたことは確かであり、これを調べ記録しておくことは意義のあることと考えます。大字誌として発行できるか否かは分かりませんが、標記勉強会を催し努めたいと考えております。つきましては、下記の通り会員の募集しますので、是非ご参加頂きますようお願い申し上げます。

記

- 1 名称目的 「行重の歴史を勉強する会」と称し、行重の歴史に関する事柄を収集・調査・記録に残すと共に可能な場合は大字誌として発行。
- 2 内容等
 - (1) 「香寺町史」「村の歴史」等を読んでみる
 - (2) 座談会等を開催し、古くからの言い伝えなどを収集する
 - (3) 史跡、言い伝えの地などを訪ねる
 - (4) その他、古文書、古地図、文献等情報の収集整理保管等
- 3 開催日時・場所 毎月第3土曜日 午前8時～10時（於：集落センター）
- 5 会費 100円/月（予定）

4 行重の歴史を勉強する会の状況

- 会 員 16名（男性13名；女性3名）
- 運 営 会 長 1名
副会長 2名（男女各1名）
会 計 1名
事務局 2名
- 会 費 1200円/年
- 勉強会 1回/月（第3土曜日）午前8時～10時
- 実施回数 平成25年6月～26年12月（15回開催）
- 雰囲気等 意気盛ん。但し、懐かしの写真展後は停滞気味

5 これまで実施してきた内容等

1 「村の記憶」 等を読む	「村の記憶」等行重に係る資料を読み進めた ア 村の出来事、歴史的な事実の再確認ができた イ 様々な意見・感想・疑問点が寄せられた
2 疑問点の 調査など	例) 消滅した池の位置⇒位置が曖昧に。古い地図 を頼りに歩いてみよう 粘土採取会社の水通し代⇒何のこと？ ラミーの栽培⇒他の栽培物を調べてみよう



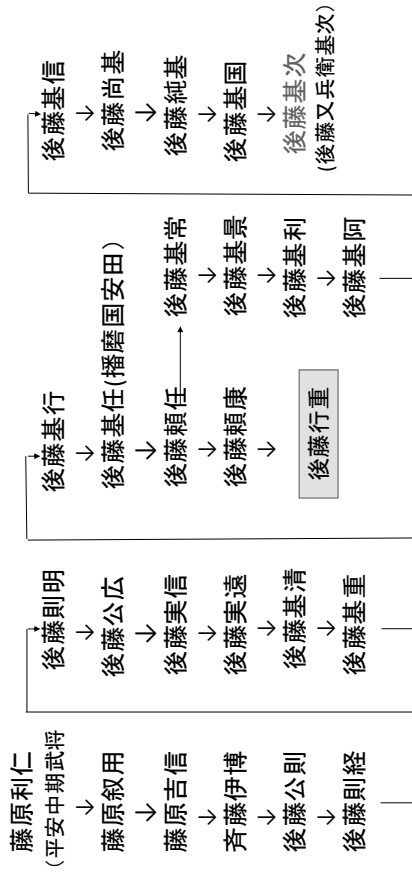
疑問点等の調査結果

5 これまで実施してきた内容等

3 大槻先生 を迎えて

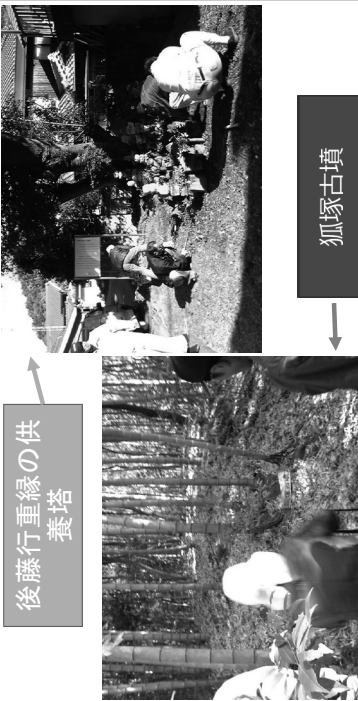
大字誌を作る上で大切なことを教えて頂いた
 ア 珍しいことを書く必要はない
 イ 知らないことを書くとうとしない
 ウ 皆の体験を書くことが重要ではないか
 エ 中世以前のことははっきりしないー江戸
 期以降で十分ではないか
 オ 村の古さに拘泥するのは得策ではない
 カ 見て廻る(足を運ぶ)ことが大事
 キ 後藤行重のことは曖昧でありこたわらない

後藤行重略系図



5 これまで実施してきた内容等

4 現場へ 足を運ぶ



5 これまで実施してきた内容等

- ### 5 「蔵」の調査
- ・大槻先生指導のもとに
村人の蔵の調査を実施
 - ・古文書の撮影を実施



5 これまで実施してきた内容等

6 懐かしの写真&

資料展の開催

- ・村人から提供頂いた古い写真や古文書、絵図等を展示
- ・古文書解説も実施



5 これまで

行重の歩み

- ・開拓時代 行重が開かれたのは1317年頃。多くは、山裾に広がる畑地であったと思われる
- ・江戸初期 開拓後340年以内に池(8カ所)、井堰(9カ所)を造営
- ・江戸中期 本高 314石7升5合(田畑 20町5畝29歩半(名寄帳より:1794年:寛政6年)
- ・幕末 村人180名(男94名、女86名)(宗門改帳より:1861年:万延2年)
- ・明治初期 米≒220石、糯米≒8石、麦≒30石、小麦≒4石、大豆≒2石、空豆≒3石、小豆≒1石
大根≒800貫、小芋≒2石、菜種≒2石、実綿≒125貫(5円以上の主要物産:M8年)
- ・明治中期 麦秋の為、子供の学校を休ませたい旨の届け ⇒ 子供も労働力
- ・大正期 行重耕地整理組合設立 村中溝渠築造(サイフォン構造)
- ・昭和前期 行重供出米 959俵
- ・昭和後期 昭和6年 屋台購入(1350円:青年団960円:消防組600円等)
圃場整備・営農組合設立(退職後のリーダーを中心に請負耕作等を行い、新しい地域作りに成果を上げている ⇒ 国から表彰)
- ・平成 近隣9営農組合と共に株式会社アグリ香寺設立に参画、独立採算の支店として営農

6 大字誌の発行に向けて一今後の作業等

- 1 行重の史跡地等をめぐり
古い地図を頼りに行重巡りをする
- 2 古い写真の提供を求め
- 3 古文書の提供を求め
- 4 関係資料の精読
- 5 大字誌に向けた内容を考える
- 6 賛同頂ける人の蔵等調査
- 7 古老の話を聞く

5 大字誌の発行に向けて

一今後の研究テーマ若しくは大字誌の内容一

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 山の役割と移り変わり | 8 髪型、衣服、履物等の変化 |
| 2 食べ物と移り変わり | 9 祭りの変遷 |
| 3 過去に行重で生産された作物 | 10 村の行事の移り変わり |
| 4 農地、農業の変遷 | 11 小字の名前の由来 |
| 5 村人の職業の移り変わり | 12 村人が何故遠方のお寺の檀家になったのか |
| 6 村の屋号さまざま | 13 家紋について |
| 7 方言について | 14 冠婚葬祭について |